

会話活動の可視化

会話のデッサンツールのための基礎的研究

Visualization of Conversational Activities –A Preliminary Study on Developing a “ Dessin ” Tool for Conversation–

横山美紀¹ 木村健一¹ 戸田真志¹ 松原知代子¹ 高山貴裕¹

Miki Yokoyama Ken-ichi Kimura Masashi Toda Chiyoko Matsubara Takahiro Takayama

公立はこだて未来大学システム情報科学部¹

This preliminary study is to develop a tool for on-line conversation, which facilitates interactions for learning of foreign languages and cultures. Japanese college students at Future University-Hakodate and college students at East Tennessee State University, U.S.A., communicated each other in English, using our originally developed BBS tool from June

to July 2002. This paper observes the communication activity and the follow-up reflective activity to explore better BBS functions. Students' output during the reflective activities shows the importance of reconstructing their BBS-based conversations for learning of languages and cultures.

Key Words: Reflection, Inter-Cultural Communication, Personalization, Tool Development, BBS

1. はじめに

本研究は、教育実践を通し、会話のやりとりとしてのインタラクションと会話後のリフレクション活動を促す会話システムの開発を目指している。公立はこだて未来大学システム情報科学部（以下未来大）のコミュニケーションクラスの受講生と米国東テネシー州立大学（East Tennessee State University: 以下ETSU）の学生が電子掲示板システム（Bulletin Board System: 以下BBS）を用い、英語で会話をした。その活動と、パソコンから離れた実世界の中で「会話をデッサンする」「リフレクション活動を実践すること」によりBBSの仕様を検討した。リフレクション活動で促進された会話の客観視と内省がコミュニケーションツールをデザインする上で重要な要素であることがわかった。

なお、本研究で「会話をデッサンする」という言及における「会話」は、すでにやりとりされたBBS上でのダイナミックな会話を一種のオブジェクトとして扱った状態のものを指す。「デッサンする」とは、その会話を目で追い、シーケンス性・関連性を見出し、図解し、それらを構造化する活動を指す。

2. 実践の経緯

この教育実践は、未来大2年生の必修科目「コミュニケーションⅢ」の中で1) BBSを通じて英語による簡単なコミュニケーションのやりとりの楽しさを体験させ、2) アメリカの同世代の若者と意見交換を行なうことで異文化理解を促進させ、3) 英語運用能力の向上をさせることを目的に実施した。アメリカ側の学生は、ETSUで日本語あるいは東アジアの文化のコースを受講している学生である。期間は2002年6月4日から同年7月4日にかけて行った。

双方の学生は日米の学生生活や生活文化等について情報交換、意見交換を行なった。しかし、本BBS活動の間、パソコン内だけで会話の流れやその全体像を把握することには限界があった。その限界を解き明かすために、本学のミュージアムの壁を活用したリフレクション活動を行なった。リフレクション活動では、それまでのBBS上での会話を図解化して見つめなおす活動を行った。

3. 先行研究との関連

これまでインターネットを利用した外国語学習や国際交流学習が行われてきている。インターネットを利用した国際交流学習の実践例として影戸（2001）がある。影戸（2001）では、オンラインで

交流を深めた後実際に会うことでさらに異文化理解の学びの成果を得ている。また、米沢（2002）はBBSを活用した日本人大学生と日本滞在中の外国人留学生間の交流学習を実践している。御堂岡（2000）は、異文化間コミュニケーションにおいて齟齬をきたす場合は「文化が異なるため」先、異文化接触をしている者の立場の違い（留学生と学校事務局、店子と家主）など、別の要因によることが多いと指摘している中、影戸、米沢の両実践は、大学生同士という類似の環境と世代間で行われているところが学習成果をもたらす鍵になっている。本研究も、オンラインで遠隔間のコミュニケーションを可能にさせている点や同世代の交流の意義に注目している点では先行の実践と共通である。本研究の注目すべき点は、オンラインでのやり取りの終了後、実世界上で会話を見つめなおすリフレクション活動を通して異文化間理解に関する学びの効果を高めている点と、それを今後のBBSの仕様に反映させようとしている点にある。

4. BBSの試作

効果的な外国語学習のためには、会話を基本としたコミュニケーション活動が活発に行われることが重要である。すなわち、利用するコミュニケーションツールは、以下のような特徴を持つことが望ましいと考えられる。

- ・会話の流れの中で円滑にコミュニケーション活動ができるように、会話が内容毎に整理され、会話のやりとりの全体像や連続関係が一覧できること
- ・比較的短い文章を用いた気軽なコミュニケーション活動が促進されていること

上記を満たすものとして、本研究ではスレッド表示が可能なBBSを取り上げ、試作を行った（図1）。BBSは、スレッドを単位として話題が整理されているため、やりとりの全体像が把握しやすく、また、メール等に比べて、比較的短文でのコミュニケーションが成立しやすいツールであると思われる。今回試作したBBSの主な特徴は以下の通りである。

- ・検索と整理
投稿順、投稿者など複数のキーで検索が可能な機能を実装した。受講者はさまざまなキーで会話全体を検索・整理することで、会話の全体像や流れを把握することが可能となる。

・返信画面のメッセージ入力欄

比較的短い投稿でも気軽にできるように、返信画面のメッセージ入力欄は小さめにした(図2)。

・表題画面の工夫

表題を表示する画面中には、投稿者、投稿日時、タイトル等の他に、投稿本文の最初の部分も併せて表示した。これにより会話の流れや全体像が容易に把握できるようになる。

他にも、会話の相手を理解するためのプロフィール登録機能(写真、趣味などを登録できる(図3))、カテゴリを用いた分類機能(全体を8つのカテゴリに分類して整理した。受講者はそれぞれ興味のあるカテゴリに投稿していた)なども実装した。本BBSは、短いメッセージも気軽に投稿できたことを、BBSによる会話活動実践後の受講生へのアンケートにより確認している。



図 4



図 5

動の形跡を図化した(図5)。

結果として、各日のアクティビティの成果において、大きく異なる特徴を見ることができた。1日目のグループスレッド単位での貼り付けでは、受講生は自分たちの会話のやりとりを客観的に概観し、会話の全体像を見つめなおすことができた。この際、受講生は、BBS上での会話活動時と同様に、1つのシーケンスを1つのオブジェクトとして捉えている。一方で、2日目の個人スレッド単位での貼り付けでは、内省的なリフレクションが活性化され、会話の流れはもはやパソコン内のカテゴリやシーケンス単位ではなく、BBS上での各自の1つ1つの会話を単位に多様な形でデッサンされた。この際、受講生は、会話を新たなダイアグラムとして再構成している。

6.まとめと今後の課題

受講生は、リフレクション活動の2日間のそれぞれにおいて、会話を異なったアプローチでとらえた。1日目、受講生は、会話を巻物のように連なるスレッドとしてしかとらえていなかったのだが、2日目には自分の関わった会話を抜き出し、それをインタラクティブな図として再構成した。2日目において受講生はやりとりの会話をパーソナライズし、より自分のものとして捉え直し、「かたち化」することができた(会話のデッサン化)。

リフレクション活動によりやりとりの会話への理解が深まり異文化理解の学びも促進された。ここに体験型の外国語教育、異文化理解教育におけるリフレクション活動の重要性をみることができる。

学生は印刷した会話においては会話の全体像をBBSの仕様とは異なった形でとらえ、表現していた。今後の課題として、今回のリフレクション活動で見られた2種類の会話の捉え方を新しいタイプのBBSにどう反映させるか、がある。コミュニケーションツールをデザインする観点から考えると、空間に会話がシーケンスとしてまとめられてさらに自在に動かせるようなBBSを開発する必要がある。

参考文献:

- 影戸誠。(2001)。「翼をもったインターネット:国際交流マニュアル」, 日本文教出版。
 御堂岡潔。(2000)。「『コミュニケーション教育』開拓するいくつかの課題:『新しいメディアの活用』および『国際理解の促進』を視点に加えて」, 『コミュニケーション教育の現状と課題』, 英潮社, pp. 7-26。
 米沢久美子。(2002)。「電子掲示板システムを活用した留学生と日本人学生の学校間連携授業」, 『日本語教育学会平成14年度第4回研究会予稿集』, pp. 27-32。

図 1

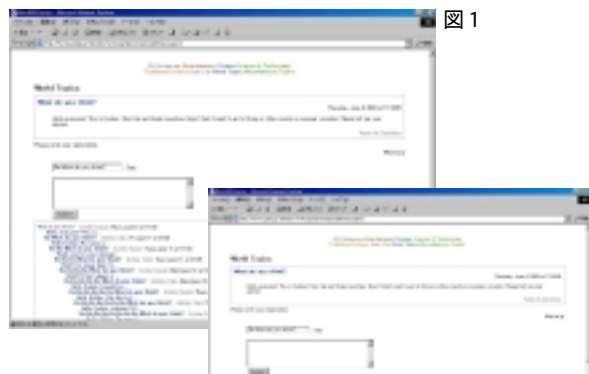


図 2



図 3

5.BBS後のリフレクション活動

BBSによる会話活動を見つめなおすためにリフレクション活動を行った。本活動は未来大内のミュージアムにて行った。

13m x 13mのミュージアムには白い壁が3面あり、受講生は自由に紙を貼り付けることができる。リフレクション活動は2002年7月16日・18日の2回のクラス時間内に行った。

リフレクション活動ではそれまでのBBS上での会話の内容を全て印刷し、壁に貼り付け図化させることによって会話の可視化を試みた。受講生は、自分や他の受講生の投稿を見つめなおし、感想や新たな発見などを書き込んだ。1日目と2日目は、以下のようにそれぞれ別のアプローチにて会話のやりとりを図化した。

1日目は、BBS上での会話をグループスレッド単位のまま時系列にすべて印刷し、壁に貼った(図4)。2日目は、個人単位で壁のスペースを提供し、各受講生別に各自のBBSでの会話活